

いのちと未来を守るまちづくりについて

○16 番(野村羊子さん) こんにちは。今回の私の一般質問は、いのちと未来を守るまちづくりについてです。新型コロナウイルス感染症対策等に関連することは、今回の一般質問では取り上げないことと申合せがなされ、当初の予定からは一部取り下げでの通告となりました。答弁のほうも御配慮いただければと思います。よろしくお願いいたします。

21 世紀になってから、新たな感染症が次々と人間へ伝播してきています。その原因には、気候危機による環境変化、そして、人間による必要以上の開発の影響を挙げることができます。今まで人間と接触することの少なかった生き物たちが、異常気象や乱開発によって居住空間や行動範囲が変化し、人間と接触することが増える。そのようなことから、人間には抗体のない感染症が伝わってくるのだと考えられています。最も暮らしに密着した地方自治体として、市民の命と未来を守る施策が求められています。様々な感染症拡大に対する対策としても、気候危機に対する対策を進めなければならないと考えます。

(1)、気候非常事態について。

気候危機への対策として、「科学の声」によれば、産業革命後の温度上昇を 1.5 度未満に抑える必要があるのです。この認識に基づき、2050 年、温室効果ガス排出量ゼロを目指して世界は動いています。このままでは、引き返すことのできない臨界点——ティッピングポイントを超えと言われていています。温暖化を止められるかどうかは、2030 年までの 10 年間に急ブレーキを踏めるかどうかにかかっているという認識の下、市の姿勢を改めて示す必要があると考えます。

ア、気候非常事態宣言について。

質問1、気候危機の現状をどのように捉えているのか、市長の認識をお伺いします。

質問2、気候非常事態宣言を発し、市民と共に気候危機に対応する姿勢を明確に示すべきです。市長の見解をお伺いします。

イ、「ゼロエミッション東京戦略」について。

東京都は、2019 年 12 月に気候変動対応のパラダイムシフトを掲げ、ゼロエミッション戦略

を定め、2050年のゴールと2030年の目標を定めました。

質問3、三鷹市地球温暖化対策実行計画における目標値との整合性をどのように認識しているのでしょうか。

ゼロエミッションを達成していくためには、省エネと再エネを組み合わせることが重要です。三鷹市は、省エネについては何年も前から取り組み、市庁舎の複層ガラス化や公共施設の照明のLED化等に取り組んできました。そこで、今後は環境エネルギー戦略、再生可能エネルギーと経済活性化とを併せた政策へと転換していくことが必要だと考えます。

質問4、公共施設に太陽光パネル設置を促進することについて、市長の見解をお伺いします。

質問5、公共施設での使用電力の調達を再生可能エネルギー由来のものに転換することについて、市長の見解をお伺いします。

質問6、小水力電力、地熱発電、バイオマス発電等、再生可能エネルギーに関する技術革新が進んでいます。三鷹市において実現可能な再生可能エネルギー活用のため、事業者等からの提案を募ることを提案いたします。この検討について、市長の見解をお伺いします。

公共施設をゼロエネルギー化するためのZEB化——ネット・ゼロ・エネルギー・ビルディングの技術提案が始まっています。

質問7、三鷹市の公共施設長寿命化に当たり、ZEB化の方向で検討、設計すべきです。市長の見解をお伺いいたします。

ウ、家庭部門での温暖化対策について。

ゼロエミッション戦略の目標達成には、家庭部門での追加的・効果的な施策の実施が必要です。

質問8、新築、改修に当たり、高断熱化や太陽光発電設備等の設置促進のための施策を導入することについて、その検討について、市長の見解をお伺いします。

質問9、固定価格買取制度10年の期間が終了した卒FIT者——FITを卒業したという意味ですね。卒FIT者に対し、この人たちに対する、その後の対応についての学習会の開催や市が卒FIT者からの電力、つまり、再生可能エネルギーの買取等の対応策を導入することについて、市長の見解をお伺いします。

質問10、啓発事業として、コミュニティ・センター、自主グループ等への出前講座の実施を提案いたします。市長の見解をお伺いします。

質問 11、啓発事業として、学校、保護者等への出前授業の実施について、教育長の御見解をお伺いします。

質問 12、環境標語、環境ポスターに加え、温暖化防止等、気候危機に関する短編動画を公募し、市の公式動画チャンネル等で放映することを提案いたします。この検討について、市長の御見解をお伺いいたします。

エ、気候変動対策としての資源循環について。

東京都は、資源循環施策への転換によるCO2削減を掲げています。三鷹市では、プラスチックの分別やマイバッグキャンペーンなど、既に実施しているところですが、追加的な施策が必要です。プラスチックを分別収集することは重要ですが、現在、汚れたプラスチックは燃やすごみとして焼却しています。分別の基準が曖昧になり、プラスチックの焼却量が増加していく懸念があります。

質問 13、廃プラスチック焼却量削減への取組について、市長の見解をお伺いします。

質問 14、ペットボトル削減のための公共施設へのウオーターサーバー設置について、市長の見解をお伺いします。

次に、大きな(2)、東京外郭環状道路工事の環境への影響について質問いたします。

外環については、連続 14 回目の質問となります。この東京外郭環状道路は、本線トンネル工事、直径 16 メートル、地上5階建てビルの大きさのシールドマシンを使用し、40 メートルよりさらに深い大深度地下を非開削——モグラのように地中を掘り進めていく工事が進められています。その工事の真上、地上には住居が建ったまま、その地下を勝手に掘るという前代未聞、まさに所有権無視、人権侵害の工事です。外環道の多くは住居専用地域を通り、長年かけて成熟した住宅環境が出来上がっている地域です。この外環の工事によって、市民の命、平穏な未来を脅かす問題が次々と発生し続け、私としても、これ、取り上げ続けざるを得ないという事態です。

現在発生している問題は、この住宅の真下を掘り進むシールドマシンによって引き起こされています。問題を発生し続けているシールドマシンは、来年には三鷹市域に入ってきます。今後、改善がなされなければ、三鷹市でも同様の問題が発生してしまいます。そこで、そのための確認をしていきたいと思えます。

ア、野川で継続する気泡(酸欠ガス)噴出について。

本年3月、国交省ら事業者は、地層が変わったことを理由に、土の中に気泡を注入する気泡シールド工法を再開しました。直後の3月7日には、周辺住民が野川で再度気泡(酸欠ガス)が噴出していることを確認しました。

質問 15、2018 年に引き続く、この野川における再漏気、酸欠ガスの噴出の現状をどのように認識しているでしょうか。

質問 16、周辺環境への影響をどのように認識しているでしょうか。

質問 17、気泡シールド工法を再開するに当たり、事業者は三鷹市に対して、いつ、どのような説明をしたのでしょうか。

質問 18、事業者らはトンネル直上及び周辺に居住する住民の不安の声、疑問にまともに答えません。三鷹市として、住民らに安全を担保する、データに基づいた科学的な説明を事業者にさせることについて、市長の見解をお伺いします。

イ、観測井戸における地下水の濁りについて。

シールドマシンによる掘削が続く世田谷区や調布市域の野川周辺では、振動等が頻発しています。加えて、気泡噴出が続く地点に隣接する観測井戸では、地下水の濁りが観測されました。

質問 19、地下水の濁りについて、事業者から、いつ、どのような説明があったでしょうか。

三鷹市では、給水されている水道の 32%が市域内からくみ上げる地下水であり、その飲料用水源井戸の 29 本中 11 本、すなわち、約4割が、外環道路計画地の 500メートル範囲内にあります。

質問 20、シールドマシンの通過前、通過後及び中央ジャンクション工事現場周辺を含めて、この観測井戸のデータを逐次公表することを求めるべきです。市長の見解をお伺いします。

質問 21、飲料用水道水源井戸の水質調査について、気泡シールド工法に使用している化学物質が混入、流入していないかの検査を事業者に要求することについて、市長の見解をお伺いいたします。

以上で壇上での質問を終わります。自席での再質問を留保いたします。御答弁、よろしくお願いいたします。